

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

- ・ 介護福祉科
- ・ 社会福祉科

実務経験のある教員等リスト
 〈省令で定める単位数等基準数相当分〉

学科名	教員名	科目	時間数	教員の実務経験
介護福祉科	山崎 年幸	介護総合演習Ⅰ	60	病院 介護福祉士として勤務
	河野 ひろ子	発達と老化の理解	60	病院、高齢者施設 看護師として勤務
		障害の理解	60	病院、高齢者施設 看護師として勤務
	上栗 哲男	児童福祉論	30	児童養護施設 施設長として勤務
	時間数合計		210	
社会福祉科	内平 八重子	ソーシャルワーク演習Ⅰ	30	社会福祉協議会 地域センター長として勤務
		保健医療	30	町 保健師として勤務
	上栗 明男	児童・家庭福祉論Ⅱ	30	児童養護施設にて社会福祉士・管理職として勤務
		家族福祉論	30	
	渡辺 博文	障害者福祉論	60	広島県教育委員会障害児教育室指導主事として勤務
	上栗 健登	養護原理	30	児童養護施設 社会福祉士として勤務
	崎井 真弓	リハビリテーション論	30	病院 看護師として勤務
	砂橋 昌義	福祉レクリエーション援助論	30	全国福祉レクリエーション・ネットワーク 事務局長・副代表として従事
		福祉レクリエーション援助技術	60	
	時間数合計		330	

介護福祉科シラバス

2年課程

実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の实務経験
山崎 年幸	介護総合演習 I	60	病院 介護福祉士として勤務
河野 ひろ子	発達と老化の理解	60	病院、高齢者施設 看護師として勤務
	障害の理解	60	
上栗 哲男	児童福祉論	30	児童養護施設 施設長として勤務

シラバス

科目名 介護総合演習 I		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山崎 年幸 元 病院介護福祉士																																																											
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年																																																										
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習を行う。</p>																																																														
<p>[授業全体の概要]</p> <p>各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探求を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習を行う。</p>																																																														
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探求を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習を理解する。</p>																																																														
<p>[授業の各回テーマ・内容]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">駒</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 実習の意義・目的</td> <td>各領域で学んだ知識と技術の統合</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>介護観の形成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>介護実習の枠組みと全体像の理解</td> </tr> <tr> <td>4 実習施設の理解</td> <td>実習区分の理解</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>実習施設 I の理解</td> </tr> <tr> <td>8 対象者の理解</td> <td>グループワーク：2～3人のグループにて高齢者の若い頃の遊び・馴染みの曲を学び、理解する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>グループ発表</td> </tr> <tr> <td>10 実習に関する基礎知識</td> <td>介護実習の意義・目的</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>個人情報の取り扱い</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>コミュニケーション、マナー、接遇について</td> </tr> <tr> <td>14 実習に関連する学習（介護実習 I）</td> <td>記録：観察記録の方法</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>記録：プロセスレコードの説明と活用法</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>記録：実習関連の記録</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>介護目標設定・個人票・計画表・誓約書の作成</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>事前訪問への指導・事前面接</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>実習の振り返り：自己評価と客観的評価</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>実習のまとめ</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>実習報告会</td> </tr> <tr> <td>22 実習施設の理解</td> <td>実習施設 II の理解</td> </tr> <tr> <td>23 実習に関連する学習（介護実習 II）</td> <td>実習記録の再検討</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>プロセスレコードの再検討</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>介護目標設定・個人票・計画表・誓約書の作成</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>アセスメント：情報収集の方法</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>実習の振り返り：自己評価と客観的評価</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>実習対象者の検討</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>実習のまとめ</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>実習報告会</td> </tr> </table>					駒		1 実習の意義・目的	各領域で学んだ知識と技術の統合	2	介護観の形成	3	介護実習の枠組みと全体像の理解	4 実習施設の理解	実習区分の理解	5	実習施設 I の理解	8 対象者の理解	グループワーク：2～3人のグループにて高齢者の若い頃の遊び・馴染みの曲を学び、理解する	9	グループ発表	10 実習に関する基礎知識	介護実習の意義・目的	11	実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり	12	個人情報の取り扱い	13	コミュニケーション、マナー、接遇について	14 実習に関連する学習（介護実習 I）	記録：観察記録の方法	15	記録：プロセスレコードの説明と活用法	16	記録：実習関連の記録	17	介護目標設定・個人票・計画表・誓約書の作成	18	事前訪問への指導・事前面接	19	実習の振り返り：自己評価と客観的評価	20	実習のまとめ	21	実習報告会	22 実習施設の理解	実習施設 II の理解	23 実習に関連する学習（介護実習 II）	実習記録の再検討	24	プロセスレコードの再検討	25	介護目標設定・個人票・計画表・誓約書の作成	26	アセスメント：情報収集の方法	27	実習の振り返り：自己評価と客観的評価	28	実習対象者の検討	29	実習のまとめ	30	実習報告会
駒																																																														
1 実習の意義・目的	各領域で学んだ知識と技術の統合																																																													
2	介護観の形成																																																													
3	介護実習の枠組みと全体像の理解																																																													
4 実習施設の理解	実習区分の理解																																																													
5	実習施設 I の理解																																																													
8 対象者の理解	グループワーク：2～3人のグループにて高齢者の若い頃の遊び・馴染みの曲を学び、理解する																																																													
9	グループ発表																																																													
10 実習に関する基礎知識	介護実習の意義・目的																																																													
11	実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり																																																													
12	個人情報の取り扱い																																																													
13	コミュニケーション、マナー、接遇について																																																													
14 実習に関連する学習（介護実習 I）	記録：観察記録の方法																																																													
15	記録：プロセスレコードの説明と活用法																																																													
16	記録：実習関連の記録																																																													
17	介護目標設定・個人票・計画表・誓約書の作成																																																													
18	事前訪問への指導・事前面接																																																													
19	実習の振り返り：自己評価と客観的評価																																																													
20	実習のまとめ																																																													
21	実習報告会																																																													
22 実習施設の理解	実習施設 II の理解																																																													
23 実習に関連する学習（介護実習 II）	実習記録の再検討																																																													
24	プロセスレコードの再検討																																																													
25	介護目標設定・個人票・計画表・誓約書の作成																																																													
26	アセスメント：情報収集の方法																																																													
27	実習の振り返り：自己評価と客観的評価																																																													
28	実習対象者の検討																																																													
29	実習のまとめ																																																													
30	実習報告会																																																													
<p>[使用テキスト]</p> <p>「最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習」 (中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物 																																																												
<p>[参考文献]</p>																																																														

シラバス

発達と老化の理解		授業の種類 講義	授業担当者 河野ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師																																																											
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年																																																										
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p>																																																														
<p>[授業全体の概要]</p> <p>発達と老化の理解では、介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。</p>																																																														
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できる。</p> <p>②老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できる。</p>																																																														
<p>[授業の各回テーマ・内容]</p> <p>駒</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 人間の成長と発達の基礎的理解</td> <td>人間の成長と発達――導入</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人間の成長と発達の原則 影響する因子</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発達理論</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人間の発達段階と発達課題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>形態的成長 心理的・社会的機能の発達</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>発達段階別にみた特徴的な疾病や障害</td> </tr> <tr> <td>7 老年期の特徴と発達課題</td> <td>老年期の定義と特徴</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>老年期の発達課題①</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>老年期の発達課題②</td> </tr> <tr> <td>10 老化に伴うこころとからだの変化と生活</td> <td>老化とは 老化の特徴</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響①脳神経系</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響②</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響③</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>老化に伴う精神機能の変化と生活への影響</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>老化に伴う社会的機能の変化と生活への影響</td> </tr> <tr> <td>16 高齢者と健康</td> <td>健康長寿に向けての健康</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>サクセスフルエイジング</td> </tr> <tr> <td>18 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上</td> <td>高齢者に多い症状・疾患の特徴</td> </tr> <tr> <td>19 の留意点</td> <td>老年症候群</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患 生活習慣病について</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患レポート発表①脳神経系</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患レポート発表②運動器系</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患レポート発表③循環器系</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患レポート発表④呼吸器系</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患レポート発表⑤糖尿病等</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患 悪性新生物</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患 精神疾患</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患 感染症その他</td> </tr> <tr> <td>29 保健・医療職との連携</td> <td>保健・医療職との連携の必要性</td> </tr> </table>					1 人間の成長と発達の基礎的理解	人間の成長と発達――導入	2	人間の成長と発達の原則 影響する因子	3	発達理論	4	人間の発達段階と発達課題	5	形態的成長 心理的・社会的機能の発達	6	発達段階別にみた特徴的な疾病や障害	7 老年期の特徴と発達課題	老年期の定義と特徴	8	老年期の発達課題①	9	老年期の発達課題②	10 老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化とは 老化の特徴	11	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響①脳神経系	12	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響②	13	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響③	14	老化に伴う精神機能の変化と生活への影響	15	老化に伴う社会的機能の変化と生活への影響	16 高齢者と健康	健康長寿に向けての健康	17	サクセスフルエイジング	18 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上	高齢者に多い症状・疾患の特徴	19 の留意点	老年症候群	20	高齢者に多い代表的な疾患 生活習慣病について	21	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表①脳神経系	22	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表②運動器系	23	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表③循環器系	24	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表④呼吸器系	25	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表⑤糖尿病等	26	高齢者に多い代表的な疾患 悪性新生物	27	高齢者に多い代表的な疾患 精神疾患	28	高齢者に多い代表的な疾患 感染症その他	29 保健・医療職との連携	保健・医療職との連携の必要性
1 人間の成長と発達の基礎的理解	人間の成長と発達――導入																																																													
2	人間の成長と発達の原則 影響する因子																																																													
3	発達理論																																																													
4	人間の発達段階と発達課題																																																													
5	形態的成長 心理的・社会的機能の発達																																																													
6	発達段階別にみた特徴的な疾病や障害																																																													
7 老年期の特徴と発達課題	老年期の定義と特徴																																																													
8	老年期の発達課題①																																																													
9	老年期の発達課題②																																																													
10 老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化とは 老化の特徴																																																													
11	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響①脳神経系																																																													
12	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響②																																																													
13	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響③																																																													
14	老化に伴う精神機能の変化と生活への影響																																																													
15	老化に伴う社会的機能の変化と生活への影響																																																													
16 高齢者と健康	健康長寿に向けての健康																																																													
17	サクセスフルエイジング																																																													
18 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上	高齢者に多い症状・疾患の特徴																																																													
19 の留意点	老年症候群																																																													
20	高齢者に多い代表的な疾患 生活習慣病について																																																													
21	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表①脳神経系																																																													
22	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表②運動器系																																																													
23	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表③循環器系																																																													
24	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表④呼吸器系																																																													
25	高齢者に多い代表的な疾患レポート発表⑤糖尿病等																																																													
26	高齢者に多い代表的な疾患 悪性新生物																																																													
27	高齢者に多い代表的な疾患 精神疾患																																																													
28	高齢者に多い代表的な疾患 感染症その他																																																													
29 保健・医療職との連携	保健・医療職との連携の必要性																																																													

シラバス

科目名 発達と老化の理解		授業の種類 講義	授業担当者 河野ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年
30 まとめ 単位認定試験		総復習		
〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」 (中央法規出版)		〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物		
〔参考文献〕 「最新介護福祉全書」メヂカルフレンド社				

シラバス

科目名 障害の理解		授業の種類 講義	授業担当者 河野ひろ子 元 病院・介護施設 看護師																																																									
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年																																																								
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p>																																																												
<p>〔授業全体の概要〕</p> <p>障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、他職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。</p>																																																												
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>①障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。</p> <p>②医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。</p> <p>③障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる。</p> <p>④障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。</p> <p>⑤障害のある人を支える家族の課題とその支援について理解できる。</p>																																																												
<p>〔授業の各回テーマ・内容〕</p> <p>駒</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 40%;">1 障害の基礎的理解</td><td>障害の概念</td></tr> <tr><td>2</td><td>障害者福祉の基本理念</td></tr> <tr><td>3</td><td>障害者福祉に関連する制度</td></tr> <tr><td>4 障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と特性に応じた支援 I</td><td>障害者の原因 障害別数の推移</td></tr> <tr><td>5</td><td>障害のある人の心理</td></tr> <tr><td>6</td><td>肢体不自由（脳血管障害）</td></tr> <tr><td>7</td><td>肢体不自由（ALS・パーキンソン病・脊髄損傷）</td></tr> <tr><td>8</td><td>肢体不自由（脳性麻痺・筋原性疾患）</td></tr> <tr><td>9</td><td>肢体不自由（運動器の障害）</td></tr> <tr><td>10</td><td>精神障害の基礎的理解</td></tr> <tr><td>11</td><td>精神障害者の心理的特徴と支援</td></tr> <tr><td>12</td><td>高次脳機能障害</td></tr> <tr><td>13</td><td>知的障害・発達障害</td></tr> <tr><td>14</td><td>重症心身障害</td></tr> <tr><td>15</td><td>前半の復習 まとめ</td></tr> <tr><td>16 障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と特性に応じた支援 II</td><td>視覚障害の医学的理解</td></tr> <tr><td>17</td><td>視覚障害の生活の理解（点字・日常生活への支援）</td></tr> <tr><td>18</td><td>視覚障害の生活の理解（盲導犬）</td></tr> <tr><td>19</td><td>聴覚・平衡障害</td></tr> <tr><td>20</td><td>音声・言語・嚥下障害</td></tr> <tr><td>21</td><td>内部障害（心臓・呼吸器）</td></tr> <tr><td>22</td><td>内部障害（腎臓・膀胱・直腸機能）</td></tr> <tr><td>23</td><td>内部障害（肝臓・免疫機能）</td></tr> <tr><td>24</td><td>難病の定義 種類と特性</td></tr> <tr><td>25 障害のある人の生活と支援</td><td>障害者の就労</td></tr> <tr><td>26</td><td>障害者スポーツ</td></tr> <tr><td>27 連携と協働</td><td>地域におけるサポート体制</td></tr> <tr><td>28</td><td>多職種連携と協働</td></tr> </table>					1 障害の基礎的理解	障害の概念	2	障害者福祉の基本理念	3	障害者福祉に関連する制度	4 障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と特性に応じた支援 I	障害者の原因 障害別数の推移	5	障害のある人の心理	6	肢体不自由（脳血管障害）	7	肢体不自由（ALS・パーキンソン病・脊髄損傷）	8	肢体不自由（脳性麻痺・筋原性疾患）	9	肢体不自由（運動器の障害）	10	精神障害の基礎的理解	11	精神障害者の心理的特徴と支援	12	高次脳機能障害	13	知的障害・発達障害	14	重症心身障害	15	前半の復習 まとめ	16 障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と特性に応じた支援 II	視覚障害の医学的理解	17	視覚障害の生活の理解（点字・日常生活への支援）	18	視覚障害の生活の理解（盲導犬）	19	聴覚・平衡障害	20	音声・言語・嚥下障害	21	内部障害（心臓・呼吸器）	22	内部障害（腎臓・膀胱・直腸機能）	23	内部障害（肝臓・免疫機能）	24	難病の定義 種類と特性	25 障害のある人の生活と支援	障害者の就労	26	障害者スポーツ	27 連携と協働	地域におけるサポート体制	28	多職種連携と協働
1 障害の基礎的理解	障害の概念																																																											
2	障害者福祉の基本理念																																																											
3	障害者福祉に関連する制度																																																											
4 障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と特性に応じた支援 I	障害者の原因 障害別数の推移																																																											
5	障害のある人の心理																																																											
6	肢体不自由（脳血管障害）																																																											
7	肢体不自由（ALS・パーキンソン病・脊髄損傷）																																																											
8	肢体不自由（脳性麻痺・筋原性疾患）																																																											
9	肢体不自由（運動器の障害）																																																											
10	精神障害の基礎的理解																																																											
11	精神障害者の心理的特徴と支援																																																											
12	高次脳機能障害																																																											
13	知的障害・発達障害																																																											
14	重症心身障害																																																											
15	前半の復習 まとめ																																																											
16 障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と特性に応じた支援 II	視覚障害の医学的理解																																																											
17	視覚障害の生活の理解（点字・日常生活への支援）																																																											
18	視覚障害の生活の理解（盲導犬）																																																											
19	聴覚・平衡障害																																																											
20	音声・言語・嚥下障害																																																											
21	内部障害（心臓・呼吸器）																																																											
22	内部障害（腎臓・膀胱・直腸機能）																																																											
23	内部障害（肝臓・免疫機能）																																																											
24	難病の定義 種類と特性																																																											
25 障害のある人の生活と支援	障害者の就労																																																											
26	障害者スポーツ																																																											
27 連携と協働	地域におけるサポート体制																																																											
28	多職種連携と協働																																																											

シラバス

科目名 障害の理解		授業の種類 講義	授業担当者 河野ひろ子 元 病院・介護施設 看護師	
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年
29 家族への支援		障害を持つ人の家族の状況と支援		
30 全体のまとめ 単位認定試験		全体の復習		
〔使用テキスト〕 「介護福祉学4 障害の理解」主婦の友社		〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物		
〔参考文献〕 「最新介護福祉全書」メヂカルフレンド社				

シラバス

科目名 児童福祉論		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 上栗 哲男 児童養護施設理事長																
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 介護福祉科2年																	
[授業の目的・ねらい] 「児童の最善の利益」を探求していきたい																			
[授業全体の内容の概要] テキストを中心に児童の福祉の現状を現場(施設)のケースを紹介しながら概観したい																			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 「児童最優先」が理解できること																			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数																			
<table border="0"> <tr> <td>1 児童福祉の理念 児童福祉の発展</td> <td>9 ひとり親家庭の福祉 子育て支援</td> </tr> <tr> <td>2 子どもと家庭の権利保障 現代社会と児童家庭福祉問題</td> <td>10 児童福祉と専門職 児童福祉機関・施設と専門職</td> </tr> <tr> <td>3 子ども家庭支援サービス 社会的養護と自立支援サービス</td> <td>11 関連分野の組織・機関 相談援助活動</td> </tr> <tr> <td>4 児童福祉の法体系 児童福祉の実施体制</td> <td>12 施設ケアと児童福祉援助活動 地域援助活動</td> </tr> <tr> <td>5 児童福祉の財政 母子保健</td> <td>13 ケース紹介1(ビデオ)</td> </tr> <tr> <td>6 障害児の福祉 児童健全育成</td> <td>14 ケース紹介2(ビデオ)</td> </tr> <tr> <td>7 保育 保護を要する児童の福祉</td> <td>15 試験・まとめ</td> </tr> <tr> <td>8 児童虐待対策 ドメスティック・バイオレンスへの対応</td> <td></td> </tr> </table>				1 児童福祉の理念 児童福祉の発展	9 ひとり親家庭の福祉 子育て支援	2 子どもと家庭の権利保障 現代社会と児童家庭福祉問題	10 児童福祉と専門職 児童福祉機関・施設と専門職	3 子ども家庭支援サービス 社会的養護と自立支援サービス	11 関連分野の組織・機関 相談援助活動	4 児童福祉の法体系 児童福祉の実施体制	12 施設ケアと児童福祉援助活動 地域援助活動	5 児童福祉の財政 母子保健	13 ケース紹介1(ビデオ)	6 障害児の福祉 児童健全育成	14 ケース紹介2(ビデオ)	7 保育 保護を要する児童の福祉	15 試験・まとめ	8 児童虐待対策 ドメスティック・バイオレンスへの対応	
1 児童福祉の理念 児童福祉の発展	9 ひとり親家庭の福祉 子育て支援																		
2 子どもと家庭の権利保障 現代社会と児童家庭福祉問題	10 児童福祉と専門職 児童福祉機関・施設と専門職																		
3 子ども家庭支援サービス 社会的養護と自立支援サービス	11 関連分野の組織・機関 相談援助活動																		
4 児童福祉の法体系 児童福祉の実施体制	12 施設ケアと児童福祉援助活動 地域援助活動																		
5 児童福祉の財政 母子保健	13 ケース紹介1(ビデオ)																		
6 障害児の福祉 児童健全育成	14 ケース紹介2(ビデオ)																		
7 保育 保護を要する児童の福祉	15 試験・まとめ																		
8 児童虐待対策 ドメスティック・バイオレンスへの対応																			
[使用テキスト] 最新保育士養成講座 第3巻 子ども家庭福祉 全国社会福祉協議会		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)																	
[参考文献] 社会福祉援助技術 北大路書房																			

社会福祉科シラバス

4年課程

教員名	科目	時間数	教員の実務経験
内平 八重子	ソーシャルワーク演習 I	30	社会福祉協議会 地域センター長として勤務
	保健医療	30	町 保健師として勤務
上栗 明男	児童・家庭福祉論 II	30	児童養護施設にて社会福祉士・管理職として勤務
	家族福祉論	30	
渡辺 博文	障害者福祉論	60	広島県教育委員会障害児教育室指導主事として勤務
上栗 健登	養護原理	30	児童養護施設 社会福祉士として勤務
崎井 真弓	リハビリテーション論	30	病院 看護師として勤務
砂橋 昌義	福祉レクリエーション援助論	30	全国福祉レクリエーション・ネットワーク 事務局長・副代表として従事
	福祉レクリエーション援助技術	60	

シラバス

科目名 ソーシャルワーク演習 I		授業の種類 (講義)演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 社会福祉協議会勤務
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科1年 前期	
[授業の目的・ねらい] ソーシャルワークにおけるニーズについて理解し、地域社会におけるニーズについて考察を深める。 さらに、地域社会の診断、ニーズの予測、地域ニーズの探索から地域アセスメント、地域福祉支援計画を作成することを通して、地域における包括的支援方法を身につける。			
[授業全体の内容の概要] ・テキストに沿って、相談援助の流れを学習する。 ・新聞等、種々の情報を収集し、自分の意見を持つ、整理する。 ・グループワーク等で他者と意見交換し、自分の意見の修正や他者との調和を図る。 ・障害者の通所施設において、基礎福祉演習を行う。 ・基礎福祉演習により、対象者理解、スタッフの関わり方、支援の方向性などについて学習する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握について理解する。 ・地域福祉の計画について理解する。 ・ネットワーキングについて理解する。 ・社会資源の活用、調整、開発について理解する。 ・サービスの評価について理解する。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション／社会福祉について 2 社会福祉について、社会福祉援助活動について P2-15 3 直接援助活動の過程について／間接援助活動の過程について P15-26 4 ニーズとは何か／個人のニーズ P28-40 5 福祉ニーズについて P40-52 6 コミュニティとその診断 P53-66 7 地域社会におけるニーズ探索とその段階について P67-75 8 見学実習① 9 見学実習② 10 現地調査の実施方法 P76-86 11 計画立案と満たされていないニーズ P87-98 12 計画の実践 P98-109 13 評価の方法／成果発表について P109-118 P121-132 14 地域社会に対するニーズ調査から支援計画までのプロセスについて 15 まとめ／単位認定試験			
[使用テキスト] 「はじめての社会福祉」編集委員会 『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験 70% 授業態度 15% 提出物 15%	
[参考文献] 新聞記事等随時配布			

シラバス

科目名 <p style="text-align: center;">保健医療</p>	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元保健師、社会福祉協議会勤務						
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">社会福祉科3年 後期</p>						
[授業の目的・ねらい] 相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む)や保健医療サービスについて理解する。専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスにおける各専門職の役割および連携についての基礎的な知識を踏襲し、保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について理解する。								
[授業全体の内容の概要] ・保健医療サービスの変遷および今日的課題について学ぶ。 ・チーム医療を理解し、そのなかでの社会福祉専門職の役割を学ぶ。 ・保健医療サービス提供施設とシステムを学ぶ。 ・医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度について理解する。 ・地域包括ケアシステムの必要性や課題を学ぶ。								
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 医療保険制度、保健医療サービスについて理解する。 専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について分かる。								
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 保健医療とは何か 2 医療関連職種について 3 医療施設、介護施設について 4 在宅支援のシステムについて 5 医師の役割とインフォームドコンセントについて 6 医療ソーシャルワーカーとその業務内容について 7 医療保険制度について 8 高額療養費制度について 9 診療報酬制度について # 介護保険制度と介護報酬の概要および公費負担医療制度の概要 # 保健医療サービスの連携の理論 # 保健医療サービスの連携の実際 # 地域の保健医療ネットワーク構築のための基礎知識 # 地域の保健医療ネットワークングの実際 # 保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割等のまとめ								
[使用テキスト] 社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』中央法規	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)							
[参考文献] NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会 『医療福祉総合ガイドブック』医学書院	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">試験</td> <td style="text-align: right;">70%</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td style="text-align: right;">15%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td style="text-align: right;">15%</td> </tr> </table>		試験	70%	提出物	15%	授業態度	15%
試験	70%							
提出物	15%							
授業態度	15%							

授 業 概 要

科目名 児童・家庭福祉論Ⅱ		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 明男 児童福祉施設副園長
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 2年 後期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>わが国は本格的な少子高齢社会を迎え、これまでのウエルフェア中心の児童福祉からウエルビーイングをもっとかりと見据えた児童家庭福祉への転換が求められる時代を迎えた。この新たな状況や課題を踏まえて、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する知識や倫理等について学ぶ。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>テキストを中心に進めるが、單元ごとに練習問題や事例問題を取り入れて理解度を確認していく。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入所児童からの訴え(作文集『続・泣くものか』) 2 現代社会と子ども家庭の問題 3 子どものための福祉の原理 4 日本の児童福祉の歴史 5 戦後の児童福祉の歩み 6 児童福祉法 7 児童相談所と関連機関 8 児童福祉施設 9 児童の社会的養護サービス 10 児童虐待の定義 11 児童虐待の実態 12 子どもを虐待から保護する仕組み 13 子ども家庭への相談援助活動 14 施設ケアの内容 15 まとめと試験 			
<p>[使用テキスト]</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会編集 「新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 試験を基本(90%)とするが、授業への取り組み(出席状況・マナー等 10%)も加味する。</p>	
<p>[参考文献]</p>			

授 業 概 要

科目名 家族福祉論		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 明男 児童福祉施設副園長
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科 3年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>現代の多様化した家族の状況や抱える問題を提示し検討する。また、その解決のためのサービスやアプローチ、ネットワークについて学修する。エンパワメントやストレングスの視点を取り入れた支援の方法について考える。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>家族が抱える問題の背景を知り、支援の必要性や解決のためのアプローチ、社会資源、ネットワーク等の技法について学ぶ。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>家族福祉の基礎的理解に立ち、その援助方法を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間にとって家庭とは何か 2 わが国の社会状況の変化と家庭 3 現代社会の家庭が内在している問題や課題 4 家庭支援の対象と役割 5 子どもと家庭 6 相談援助職による家庭支援 7 要保護児童とその家庭支援 8 家庭への個別的な支援 9 家庭支援にかかわる法と制度 10 家庭を支援する社会資源 11 子どもや家庭を支える社会福祉施設 12 地域支援の必要性 13 家庭を支援する技術 14 家庭支援や地域の子育て支援、児童の権利擁護の実際 15 理想とする家庭状況や地域環境 			
<p>[使用テキスト]</p> <p>橋本真紀、山縣文治『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>試験を基本(90%)とするが、授業への取り組み(出席状況・マナー等 10%)も加味する。</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>ミネルヴァ書房社会福祉士養成テキスト『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』</p>			

シラバス

科目名 障害者福祉論		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 渡辺博文 元広島県教員委員会 障害児教育室指導主事																														
授業の回数 30コマ	時間数 60時間	配当学年・時期 社会福祉科2年 前期・後期・ 通年																															
[授業の目的・ねらい] 障害者福祉の理念、歴史的変遷、法体系及び実施体制などの基本的な事項を学び、事例等の具体的な事柄を通して施策や機関・施設並びに相談援助活動について実践的な理解を深める。																																	
[授業全体の内容の概要] 障害者福祉の理念、歴史的変遷、法体系及び実施体制などはテキスト及び参考文献を中心に学習を進め、福祉サービスや関連分野及び事例等に関しては、テキストのほかビデオや関連資料、実地研修などを通して理解を深める。																																	
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 社会福祉士に必要な専門的知識と実践的力量を身につけるとともに、社会福祉士受験資格の取得をめざす。																																	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数																																	
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 障害者を取り巻く国際情勢</td> <td style="width: 50%;">16 特別支援教育に関する法令と現状</td> </tr> <tr> <td>2 障害者を取り巻く国内情勢</td> <td>17 所得保障と経済的負担の軽減</td> </tr> <tr> <td>3 ノーマライゼーションについて</td> <td>18 障害者自立支援制度(1)理念としくみ</td> </tr> <tr> <td>4 障害者の権利に係る法制度</td> <td>19 障害者自立支援制度(2)支給決定・利用</td> </tr> <tr> <td>5 障害者の生活実態</td> <td>20 障害者自立支援制度(3)医療・補装具</td> </tr> <tr> <td>6 障害の概念と構造的理解</td> <td>21 障害者自立支援制度(4)地域生活支援</td> </tr> <tr> <td>7 障害者の定義と手帳制度</td> <td>22 障害者自立支援制度(5)障害児支援</td> </tr> <tr> <td>8 障害者基本法と障害者基本計画</td> <td>23 障害者自立支援制度(6)行政の役割</td> </tr> <tr> <td>9 身体障害者・知的障害者の法令と福祉</td> <td>24 障害者自立支援制度(7)専門職の役割</td> </tr> <tr> <td>10 精神障害者の法令と福祉</td> <td>25 障害者自立支援制度(8)多職種連携</td> </tr> <tr> <td>11 発達障害者の法令と福祉</td> <td>26 障害者関連施設見学の事前学習</td> </tr> <tr> <td>12 障害者の雇用に係る法令と現状</td> <td>27 障害者関連施設の見学実習(1)</td> </tr> <tr> <td>13 バリアフリー新法と補助犬法</td> <td>28 障害者関連施設の見学実習(2)</td> </tr> <tr> <td>14 社会参加を促進する生活環境の整備</td> <td>29 事例研究</td> </tr> <tr> <td>15 保健・医療・年金等に関する法令</td> <td>30 まとめ</td> </tr> </table>				1 障害者を取り巻く国際情勢	16 特別支援教育に関する法令と現状	2 障害者を取り巻く国内情勢	17 所得保障と経済的負担の軽減	3 ノーマライゼーションについて	18 障害者自立支援制度(1)理念としくみ	4 障害者の権利に係る法制度	19 障害者自立支援制度(2)支給決定・利用	5 障害者の生活実態	20 障害者自立支援制度(3)医療・補装具	6 障害の概念と構造的理解	21 障害者自立支援制度(4)地域生活支援	7 障害者の定義と手帳制度	22 障害者自立支援制度(5)障害児支援	8 障害者基本法と障害者基本計画	23 障害者自立支援制度(6)行政の役割	9 身体障害者・知的障害者の法令と福祉	24 障害者自立支援制度(7)専門職の役割	10 精神障害者の法令と福祉	25 障害者自立支援制度(8)多職種連携	11 発達障害者の法令と福祉	26 障害者関連施設見学の事前学習	12 障害者の雇用に係る法令と現状	27 障害者関連施設の見学実習(1)	13 バリアフリー新法と補助犬法	28 障害者関連施設の見学実習(2)	14 社会参加を促進する生活環境の整備	29 事例研究	15 保健・医療・年金等に関する法令	30 まとめ
1 障害者を取り巻く国際情勢	16 特別支援教育に関する法令と現状																																
2 障害者を取り巻く国内情勢	17 所得保障と経済的負担の軽減																																
3 ノーマライゼーションについて	18 障害者自立支援制度(1)理念としくみ																																
4 障害者の権利に係る法制度	19 障害者自立支援制度(2)支給決定・利用																																
5 障害者の生活実態	20 障害者自立支援制度(3)医療・補装具																																
6 障害の概念と構造的理解	21 障害者自立支援制度(4)地域生活支援																																
7 障害者の定義と手帳制度	22 障害者自立支援制度(5)障害児支援																																
8 障害者基本法と障害者基本計画	23 障害者自立支援制度(6)行政の役割																																
9 身体障害者・知的障害者の法令と福祉	24 障害者自立支援制度(7)専門職の役割																																
10 精神障害者の法令と福祉	25 障害者自立支援制度(8)多職種連携																																
11 発達障害者の法令と福祉	26 障害者関連施設見学の事前学習																																
12 障害者の雇用に係る法令と現状	27 障害者関連施設の見学実習(1)																																
13 バリアフリー新法と補助犬法	28 障害者関連施設の見学実習(2)																																
14 社会参加を促進する生活環境の整備	29 事例研究																																
15 保健・医療・年金等に関する法令	30 まとめ																																
[使用テキスト] ・社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 広島福祉専門学校学則第26条による。(出席状況・考査・学習態度)																															
[参考文献] ・中川義基編著 介護福祉学4 障害の理解 主婦の友社 ・小澤温著 よくわかる障害者福祉 ミネルヴァ書房 ・内閣府 障害者白書 平成29年度版 勝美印刷																																	

シラバス

科目名 養護原理		授業の種類 講義	授業担当者 上栗 健登 児童養護施設社会福祉士
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科2年	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 児童養護における「家庭養育」と「社会的養護」の関係と、その意義と役割を認識し、養護問題の現状と児童福祉施設の実際について理解を深める。そして児童福祉施設の積極的意義と実践的技術についても認識させる。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕 テキストを中心とするが、事例や実践例を多用して咀嚼しやすく認識しやすい内容とする。</p>			
<p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 施設養護に対する無理解や消極的意識を是正し、固有の意義と実践歴があることを理解させるとともに、施設養護に携わることの魅力を感じとらせる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 現代社会と子どもを取り巻く環境 3 社会的養護とは 4 身のまわりから社会的養護を考える 5 VTR 視聴「石井十次」 6 石井十次の実践と現代的意義 7 施設養護の実践 8 人間性回復の原理と個別化の原理 9 親子関係調整の原理と社会復帰の原理 10 個別援助技術と個別援助事例 11 日常生活支援と自立支援の関係 12 社会的養護の領域 13 求められる専門性と援助技術 14 養護実践現場の連携とチームワーク 15 まとめ 			
<p>〔使用テキスト〕 「子どもの生活を支える社会的養護」 （ミネルヴァ書房） 小野澤昇/田中利則/大塚良一〔編著〕</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 授業意欲・態度を重視して、その中での小テストやレポートも加味する。</p>	
<p>〔参考文献〕 山縣 文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房 新・社会福祉士養成講座 15 『児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度』 中央法規。</p>			

シラバス

科目名 リハビリテーション論		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科3年	
[授業の目的・ねらい] 障害を負った人が社会復帰を目指すとき、医療職や理学療法士等の多職種連携によるチームアプローチが必須の手法として求められる。中でも連携や制度の活用を中心となる職種であるため、リハビリテーションの理論を理解していく			
[授業全体の内容の概要] リハビリテーションは障害者への総合的対策・技術であり、身体のみならず、精神的、社会的、経済的、職業的に可能な限りの回復を図る援助過程である。その意味では、障害者の基本的人権の具体化をめざす総合的援助体系であるともいえる。本科目では、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの理論と実践のバランスをよく学ぶことで、総合的な援助体系とし障害者の「自立」に必要な社会環境について理解を深める			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1 リハビリテーションの理念の理解 2 社会資源の理解 3 4領域のリハビリテーションの理解とICFを用いた支援技法の習得			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 障害者福祉関係の法体系と施策について 障害者福祉に関わる各種法律や障害者の「自立と社会参加」を支援する施策について。 2 リハビリテーションの理念について 1 「リハビリテーション」の語源や定義の歴史の変遷について。 3 リハビリテーションの理念について 2 戦傷者のリハビリテーションから障害者(一般)への対象の拡大 4 リハビリテーションの理念について 3 世界保健機関(1968)及び国連・障害者に関する世界行動計画(1982)による定義について。 5 リハビリテーションの理念について 4 自立・ノーマライゼーション・生活の質・機会均等化・完全参加と平等、「全人間的復権」について。 6 障害者の「自立」に必要な社会環境について 1 社会環境整備の目的について(完全参加と平等。障害者も社会を構成する一員である)。 7 障害者の「自立」に必要な社会環境について 2 障害者のすべての生活場面(社会・教育・職業等)における完全参加と平等・自立について。 8 障害者の「自立」に必要な社会環境について 3 心(意識)のバリアフリーとハード(物理的)のバリアフリーについて。 9 障害者の「自立」に必要な社会環境について 4 活動制限から完全参加へ(福祉用具やユニバーサルデザイン等)。 10 障害者の「自立」に必要な社会環境について 4 演習 ユニバーサルデザインの体験。 11 医療リハビリテーションと専門職 医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割や医療・療育機関について。 12 職業リハビリテーションについて 障害者の経済活動への支援施策や障害者雇用促進法について。 13 社会リハビリテーション・教育リハビリテーションについて 障害者の「社会生活力」向上への支援。SST。障害児の教育支援について。 14 地域リハビリテーションについて 入所から地域生活へ。その生活を支援するシステムネットワークと専門職について。 15 まとめ・単位認定試験			
[使用テキスト] 「よくわかるリハビリテーション」ミネルヴァ書房		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物	
[参考文献] 「最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論」メジカルフレンド社			

授 業 概 要

科目名 福祉レクリエーション援助論		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 砂橋 昌義 広島県レクリエーション協会事務局長
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科2年	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>福祉レクリエーションの、人間生活における楽しさの追及を支える理論と支援の方法を理解する。このための、具体的な福祉レクサービスを企画実践し、個人や集団を支える福祉レクワーカーを育成する。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性の尊重など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカー資格取得を目指し、福祉現場での多様なレクリエーション支援技術を身につける。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>介護現場で、楽しさを追及し、対象の主体性を引き出すレク支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用者の思いと事業所の使命のマッチング 2 福祉レクリエーション総合計画 3 在宅サービスの中での福祉レクリエーション総合計画事例 4 入居サービスの中での福祉レクリエーション総合計画事例 5 個人のニーズと福祉レクリエーション総合計画の関係 6 福祉レクリエーション総合計画をつくる～福祉レクリエーション支援の事例研究～ 7 福祉レクリエーション総合計画の策定 8 やるべきことを受け止め、楽しさ追及のために、やるべきことの決定を支える 9 対象者の思いと、支援者の視点の、マッチングの3つの事例 10 福祉レクリエーション支援の実際～事例を通した施設種別による支援計画の視点～ 11 福祉レクリエーション支援における「福祉レク総合計画」と「福祉レクサービス支援プラン」総合の視点 12 対象者の思いと組織理念を含めたグループレクリエーションの計画立案とその評価 13 介護老人施設の行事例と準備・実施のポイント 14 行事・イベント計画のポイント～事例から見てくる行事の意義と対象者が輝くポイント～ 15 福祉レクリエーション支援の評価～まとめ～ 			
<p>[使用テキスト]</p> <p>楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 ～公益財団法人 日本レクリエーション協会編～</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>よく分かる福祉レクリエーションサービス実施 マニュアル 2</p>			

シラバス

科目名 福祉レクリエーション援助技術		授業の種類 (講義・実技・演習)	授業担当者 砂橋 昌義 広島県レクリエーション協会事務局長
授業の回数 30 コマ	時間数 60 時間	配当学年・時期 社会福祉科4年	
[授業の目的・ねらい] レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考. 対人援助技術を身につけた福祉レクリエーション・ワーカーの育成と資格取得対策。			
[授業全体の内容の概要] 社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカーの育成と資格取得を目指した試験の対策。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。			
[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法] 1 福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の考え方 2 レクリエーション財の分類とレクリエーション財をどう生かすかの方策 3 レクリエーション財の活動分析の考え方と方法 4 活動分析の方法とその分析をどのように活用するかの方策 5 障害や個人に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ 6 レクリエーション財のアレンジの実際 7 事例からみたレクリエーション財の提供の仕方 8 情報収集、人的ネットワーク、社会資源の活用方策 9 楽しみを基調とした回想法・音楽療法・園芸療法 10 楽しみを基調としたフラワーセラピー・化粧療法・動物介在療法 11 楽しみを基調にしたダンス療法・プレイセラピー 12 援助のための対人援助者に求められる資質 13 援助のためのコミュニケーション技法 14 実践例題(言葉かけとリスニング) 15 援助者の人間開発トレーニング 16 老人病院でのレクリエーション援助 17 老人保健施設におけるセラピューティックレクリエーションの取り組み 18 特別養護老人ホームでのレクリエーション援助 19 通所としての老人デイサービスセンターでのレクリエーション援助 20 ホームヘルプサービス利用者へのレクリエーション援助 21 心身障害者施設でのレクリエーション援助 22 精神病院でのレクリエーション援助 23 知的障害者施設でのレクリエーション援助 24 児童施設でのレクリエーション援助 25 地域ボランティアとしてのレクリエーション援助 26 福祉レクリエーションワーカー・プログラム計画書の作成 27 個人への直接のレクリエーション援助の実技試験クリニック 28 グループへのレクリエーション援助の実技試験クリニック 29 福祉レクリエーションワーカー模擬筆記試験 30 福祉レクリエーションワーカー学内審査			
[使用テキスト] 楽しさの追求を支えるための介入技術 ～公益財団法人 日本レクリエーション協会編～		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
[参考文献] よく分かる福祉レクリエーションサービス実施 マニュアル 3			